



MfG_J_Ryoukan_and_takuhatsu

1. 良寛さんの周辺の人々
 - (1) 支援者、縁故者
 - (2) 法友、友人
2. 托鉢のエリアと寺泊蜜蔵院

2023年9月
春日

1. 良寛さんの周辺の人々

(1) 支援者、縁故者

牧ヶ花の解良家 庄屋、学問講 解良栄重(よしげ)

地蔵堂の阿部家 庄屋で酒造業 阿部定珍(さだよし)

地蔵堂の原田家、医家

与板の大坂屋・三輪家 豪商 三輪長高

六代長高の弟・左一、姪のきし(後の維馨尼)

与板の和泉屋・山田家 町年寄で酒造業 山田杜臯と妻およし

和島の能登屋・木村家 庄屋、仏教に深く帰依 木村元右衛門

与板の新木家 割元(大庄屋)、父以南の実家

出雲崎 橘屋・山本家 生家

(2) 法友、友人

- 有限 20歳年上の法、書画の親友。
円通寺で、またいとこ弟子にあたる
- 遍澄 16歳の時、59歳の良寛を五合庵に訪ね仏弟子となる
貞心尼とともに良寛の最後を看取った
- 貞心尼 70才の良寛に会う
- 鈴木文臺 良寛56歳のころ、18歳の文臺の才を見出す
墓碑の良寛漢詩「僧伽」の撰者

- 与板・徳昌寺 曹洞宗寺院、与板の新木家の菩提寺
住職活眼大機和尚は良寛の葬儀の導師
- 寺泊の照明寺 真言宗寺院
13世の良恕上人は親友

有願(うがん・1738-1808)

風狂の禅僧とも言われる有願は、現在の三条市代官島の庄屋に生まれ、出家して禅僧となり、托鉢をしながら全国を渡り歩いた。

良寛(1758-1831)の20歳年上の法友で、良寛の独特的の草書は、有願の狂草体の影響があるのではないかと言われている。晩年、新潟市江南区新飯田の円通庵に隠居して自由無碍の生活をおくったとされる。

良寛も度々訪ねてきた円通庵の場所は、三条市代官島の「ラーメン原宿」から国道8号を新潟寄りに2kmほど。

何年か前に、和島の良寛の里美術館で、良寛と有願の書画展をみる機会がありました。ふたりの合作の「絵に書」が、数点、あったように記憶しています。

遍澄法師(1801-?)

島崎の鍛冶職の早川甚五右衛門の長男として、享和2年(1801)に生まれ、11歳の頃、島崎の真言宗妙徳寺の仏門に入り、堅深和尚の指導を受けた。

16歳の時、59歳の良寛を五合庵に訪ねて仏道の弟子になった。

解良栄重の『良寛禪師奇話』に、出家した理由を尋ねられた良寛は「遍澄に問うべし」と返答したと記されています。また、良寛は遍澄の膝を枕に示寂したとも伝えられる。

良寛の木村家に移住後、遍澄は寺院の改修や子供たちに学問の手ほどきをし、蔵雲和尚(ぞううん)や林甕雄(はやしみかお)の良寛詩歌集の編著のために資料提供や助言をした。

2. 托鉢のエリアと寺泊蜜蔵院

寺泊蜜蔵院は、五合庵定住前に、仮寓。

更に、島崎の木村家に身を寄せてから
二回ほど仮寓。

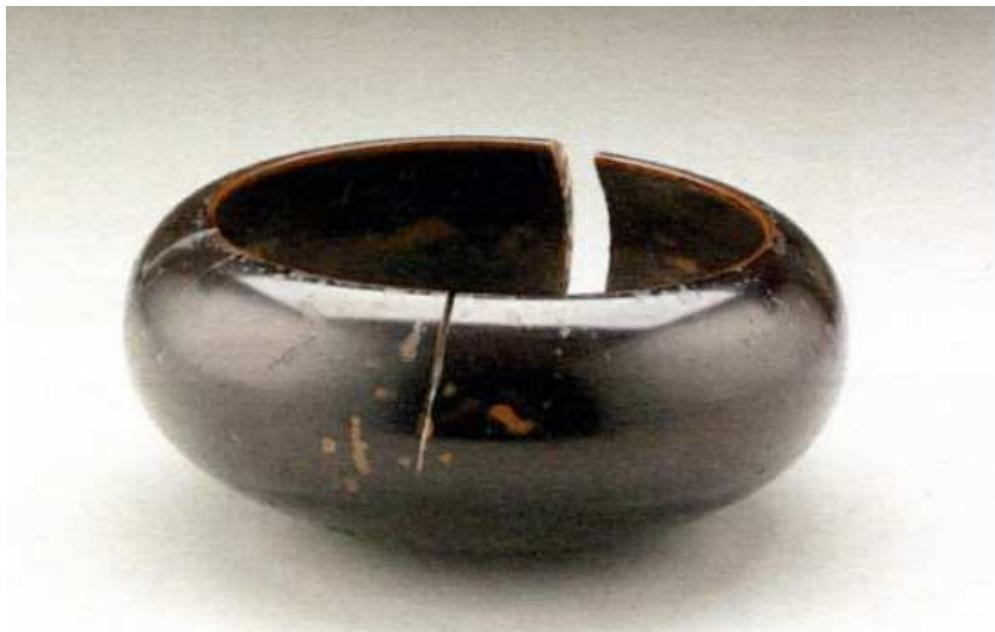
托鉢のエリアの「円」の中心であり、
長年の支援者グループにも近い。

寺泊蜜蔵院は真言宗寺院・照明寺の塔頭



門前に良寛像

托鉢



良寛の托鉢とされる

蜜藏院

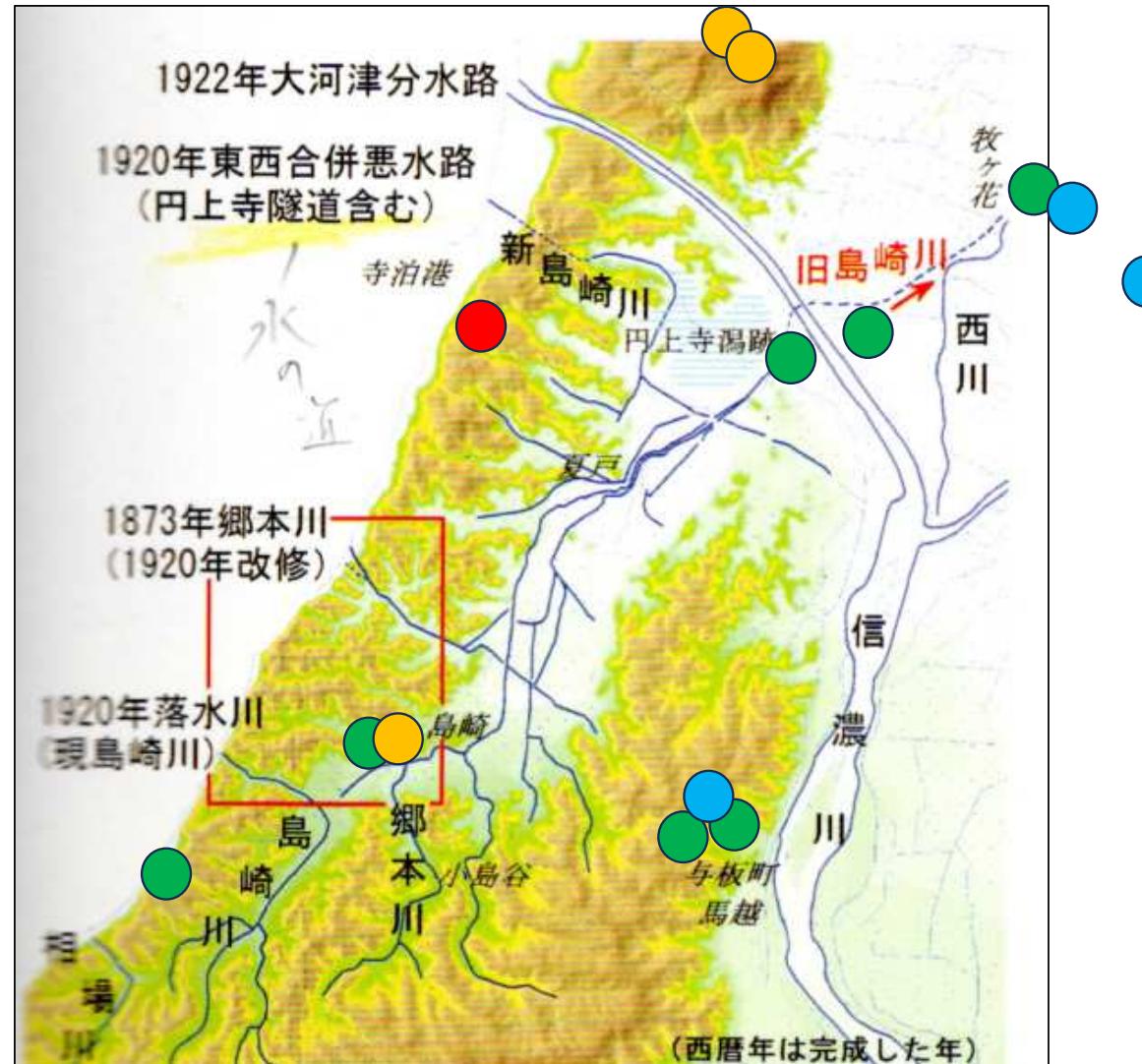


現在の建物は昭和33年に再建

托鉢のエリアと立ち寄り先プロット

- 密蔵院
- 定住地
- 支援者、縁故者
- 法友、友人

「飛び出す地形」
越路大地の会2012
より



牧ヶ花の解良家と粟生津の長善館

解良家

長善館（~~鈴木家跡~~）



解良家は、立ち寄った良寛が、破れ鍋のふたに即興で書いた『心月輪』でも有名ですが、頻繁に学者に勉強会の場を提供しており、そこに鈴木文臺少年も通っていました。

西川

今でこそ、小さな用水のような河川であるが、往時は東の信濃川に対する西の信濃川であった。史料になかには、ともに川幅80メートルを超える大河のときもあったとする。

蒲原船道が繁栄した当時は、どんなだったか。
右は、長善館史料館エントランスの絵。



新島崎川

ご存知でしょうか。

河口が、寺泊中央公園の北側にあります。
その川幅は、長岡・阪之上小の前の福島江のような感じです。
春の早朝は、釣り人が大勢。(鯉やスズキだそうです。)

牧ヶ花と和島は、西川、旧島崎川の土手で
繋がっていたようです。

この土手沿いの直線で三里の道が、托鉢の
メインルートだったのでは、と想像しています。
五合庵からメインルートへは一里弱の距離。
そのメインルートの端の島崎から与板へは、
一里半の距離。

この折れ線上で、支援者、友人の
ほとんどに会うことができます。

何日かで托鉢ルートを変えて、ひたすら
読誦と交遊の多忙な日々を送ったのでは、
と想像しています。

